

# 横浜・八景沖にヒラメ放流

神奈川県釣船業協同組合  
 (黒川忠雄理事長)は  
 7月20日(木)、海洋資源  
 の保護と豊かな海づくり  
 を目的に、横浜・八景沖

などでヒラメの稚魚約1  
 万匹を放流した。  
 同組合ではメバルの稚  
 魚放流を続けているが、  
 ヒラメは初めての試みと  
 なる。

今回の事業で使われた  
 のは今年4月20日に生ま  
 れ、神奈川県栽培漁業協  
 会(同県三浦市)が育て  
 た養殖のヒラメ。生まれ  
 てから約3カ月経過して  
 いることもあって、全長  
 は約8・7cm。作業中に  
 組合メンバーの指を噛む  
 など元気いっぱいに育っ  
 ている。

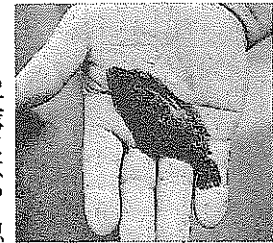
沖上がり後、黒川理事  
 長は今後の稚魚放流事業  
 について、「育てるとい  
 うことも大事になると思  
 う。自分たちで育てて撒  
 くという形になるのでは  
 ないか。これからも放流  
 を続けていきたい」と話  
 していた。

放流したヒラメ稚魚は  
 全長約8・7cm



神奈川県釣船業協同組合が実施

当日は、同組合所属船  
 宿の遊漁船4隻(一之瀬  
 丸、つり幸、弁天屋、荒  
 川屋)が横浜市漁協柴支  
 所(横浜市金沢区)にス  
 タンバイ。午前8時ごろ  
 から稚魚を船に搬入した  
 後、「八景島シーパラダ  
 イス」近くの海域などへ  
 移動。メンバーが次々と  
 稚魚をバケツから海へ放



尾